

地理歴史科（日本史探究）学習指導案

1 単元名 貴族政治の展開

この単元は、「2 内容」の「A原始・古代と東アジア」の「(2) 歴史資料と原始・古代の展望」に該当する。

2 単元の目標

- (1) 律令体制から貴族政治・摂関政治や地方政治の展開など律令制の変容に関する歴史資料を読み取り、分析して理解する。
- (2) 摂関政治の特色や貴族の生活・文化の特色、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況について考察し、根拠を示して表現する。
- (3) 原始・古代の国家・社会の展開について、よりよい社会の実現を視野に入れて、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元の指導計画(全体7時間、ただし1時間は65分授業での計画)

(1) 指導計画

- ・摂関政治 2時間
- ・国風文化 1時間
- ・地方政治の展開と武士 3時間(本時1/3)
- ・単元のまとめ 1時間

(2) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| ・律令体制から貴族政治・摂関政治や地方政治の展開など律令体制の変容に関する歴史資料を読み取り、分析して理解している。 | ・摂関政治の特色や貴族の生活・文化の特色、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況について考察し、根拠を示して表現している。 | ・原始・古代の国家・社会の展開について、よりよい社会の実現を視野に入れて、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

| 次 | 学習内容 | ねらい・学習活動 | 評価の観点 | | | (B)具体的な評価規準 (C)具体的支援 | 評価方法 |
|------------|---|--|-------|---|---|--|-------------|
| | | | 知 | 思 | 態 | | |
| 第1次 (2) | 【学習課題】<問い>「貴族政治は当時の世の中にどのような影響を与えたか」 | | | | | | |
| | 【学習課題】<問い>「なぜ摂政や関白がおかれたのか」 | | | | | | |
| | ・摂関政治 | 【ねらい】摂関政治が確立していく流れを当時の時代背景から理解する。 | ● | | | (B)摂関政治の特徴と確立していく時代背景を理解している。 | |
| 第1次 (1) | 【学習課題】<問い>「なぜ藤原道長の道長は関白にならなかったのか」 | | | | | | |
| | ・摂関政治 | 【ねらい】藤原道長をテーマに天皇を中心とする太政官制と摂関政治の仕組みを理解する。 | ○ | ● | | (B)藤原氏の栄華について、太政官制と天皇親政、摂関政治を比較しながら考察している。 | 定期考査 |
| 第2次 (1) | 【学習課題】<問い>「国風文化はどのような政治体制や国際環境の下で生まれたか」 | | | | | | |
| | ・国風文化 | 【ねらい】遣唐使が廃止されたことと、国風文化が発達したことを関連付けて考察する。 | ● | | | (B)国際情勢や摂関政治と関連付けて国風文化を理解している。 | |
| 第3次 (3) | 【学習課題】<問い>「地方の政治や地方支配はどのように変容していったか」 | | | | | | |
| | ・地方政治の展開 | 【ねらい】受領や国司に関する資料を読み取って摂関期の地方政治を理解し、その変容について仮説を立てて考察し、表現する。 | | ○ | ● | 4(3)参照 | ワークシート 1 |

| | | | | | | |
|------------|---|---|---|---|---|---|
| | 【学習課題】<単元を貫く問い>「土地制度にどのような変化があったか」 | | | | | |
| | ・荘園と公領 | 【ねらい】 地方政治と税制度を関連付けて土地制度の変容を理解する。 | ● | | | (B) 地方政治と税制度を関連付けて土地制度の変容を理解している。 |
| | 【学習課題】<単元を貫く問い>「貴族と武士の違いはどこか」 | | | | | |
| | ・武士の出現 | 【ねらい】 地方の反乱をテーマに武士の出現について理解する。 | ● | | | (B) 武士の出現とその意義を理解している。 |
| 第4次 (1) | 【学習課題】<単元を貫く問い>「貴族政治は当時の世の中にどのような影響を与えたか」 | | | | | |
| | ・単元のまとめ ・原始・古代の考察 | 【ねらい】 単元を振り返り、貴族による政治の特徴や時代背景を考察する。 【ねらい】 中世への移行に向けて、原始・古代の時代観を表現する。 | | ○ | ○ | (B) 原始・古代について時代の画期を考察し、自分の考えを表現している。 学習記録用紙 ワークシート 2 |

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 律令体制期から摂関期にかけて国司と郡司の関係が変容したことなど、歴史資料から地方政治が変容したことを読み取り、多面的かつ多角的に考察し、仮説を立てて表現する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

| | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
|-----|--|---|---------------------------------|
| 導入 | ・律令体制における地方政治の振り返り | ・国司や郡司の職制や役制などの既習事項をグループで確認しながら振り返る。 | ・必要に応じて教科書や図説、授業プリントの該当箇所を指示する。 |
| 展開 | 【資料読み取り】「摂関期における地方の政治や地方支配はどのようなものだったか」 ・資料の読み取り、仮説、考察 ・意見交換と修正 ・地方政治の変容(まとめ) | ・仮説を立てる。 ・周囲と各自の仮説を意見交換し、他者の意見を踏まえて多面的かつ多角的な視点をもち、考えを深める。 ・自身の仮説をまとめ、表現する。 ・朝廷や国司の立場で考察する。 | ○ワークシート1-④【思考・判断・表現】 |
| まとめ | ・振り返り | ・学習記録用紙を完成させ、提出する。 | ●学習記録用紙 【主体的に学習に取り組む態度】 |

(3) 本時の評価規準

ワークシートの評価規準【思考・判断・表現】

・律令体制期から摂関期における地方支配の変容についてまとめよ。

判断基準

| |
|--|
| 「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例 |
| ・律令体制期から摂関期における地方支配の変容について仮説を立て、根拠となる資料を基に考察し、表現できている。 |
| 「十分満足できる」状況(A)と判断される例 |
| ・律令体制期から摂関期における地方支配の変容について仮説を立て、根拠となる資料を示して多面的かつ多角的に考察し、表現できている。 |
| 「努力を要する」状況(C)と判断される例とその生徒への支援 |
| ・律令体制期から摂関期における地方支配の変容について理解できていない。 →資料から、摂関期における地方社会の実情と律令体制下の地方社会との相違点を理解させる。 |

5 成果と課題

(1) 成果

今回、ジクソー法を取り入れ、歴史資料から当時の様子を読み取り、社会の変容を考える実践を行った。複数の歴史資料から当時の情報を読み取ることは生徒にとって難しく、時間のかかる作業であったが、生徒はそれぞれの視点に立った仮説を検証し、協力して解答を導き出そうとしており、多面的に考察しようとする態度を身に付けることができるよい場面になったと考えている。普段、講義中心の授業が多いため、生徒にとって、普段の講義形式の授業や教科書ではなく、自分で考えたことを協働的な学びで深めていき、知識を得ることは新鮮であり、教師による説明や発問がなくても、確実に学び取っているように感じられた。また、必要な歴史資料や情報を自ら読み取ろうとし、関連のある事柄などを自発的に調べていく様子も見受けられ、主体的に学びを促すことができたと判断している。今回の実践は一定の成果を得ることができたと言えるため、今後も歴史資料を生徒が読み取っていくスタイルの授業を活用していきたい。

(2) 課題

歴史資料の読み取りに関しては、1学期より授業で資料集を活用し、古文書の原文に触れる機会を設けた上で、現代語訳された資料を用いるなどの工夫を施した。それでも難しい言葉遣いがある古文書の読解には多くの時間をとられ、解釈や考察に教師のヒントを必要とするグループや場面があった。日本史探究を担当するにあたり、資料を用いた授業展開のために事前準備に要する時間は多いと言える。

また、多面的・多角的に思考させるために、今回は7つの資料を提示したが、生徒にとって資料の関連性を読み取ることができなかつたようである。どの資料をどの程度活用していくのかについては構想段階から吟味したが、授業のねらいと生徒の様子を踏まえると、資料を精選する必要があったと感じている。今後の授業実践を重ねていく中で、適切な資料の提示の仕方を探っていきたい。

本実践では多面的かつ多角的な考察を通じて「生徒の主体的な学びを促す」ことをねらいとした授業を目指し、また校種を問わず、どの時代区分、どの単元でも活用できるよう汎用性のある授業づくりを心がけた。本実践の反省を踏まえて授業改善をすることで、生徒の可能性を引き出す学びの在り方を追究し、今後も研究を継続していきたい。

6 参考文献

- ・『日本史史料 1 古代』(歴史学研究会 2016年)
- ・『概論日本歴史』(佐々木潤之介 他 吉川弘文館 2006年)
- ・『古代史講義』(佐藤信 ちくま新書 2018年)
- ・『論点・日本史学』(岩城卓二ら ミネルヴァ書房 2022年)
- ・『受領と地方社会』(佐々木恵介 山川出版社 2004年)
- ・教科書『詳説 日本史』山川出版社
- ・副教材『新詳日本史』浜島書店
- ・副教材『最新 詳述日本史史料集』実教出版